

空手道で一番苦しかったこと

審査日平成20年9月6日

西東京本部 浜田山支部 武田敏恵

空手をやっていて苦しかったことは、と問われ、ずい分思い返してみましたが、何も思い当たりません。

息子と一緒に通う練習は、大好きな子どもとの時間の共有として、また、知らないことを教えてもらえる場としてとても楽しみなところです。

月心会に入ったきっかけは息子です。私には二人の子どもがいますが、子ども達は生まれてからずっといろいろなことを教えてくれます。人を真っ直ぐに見られる目、スッと差し出せる手、目の前の相手を好きと思える気持ち。そんな子どもを見ていて、将来困ったことがあった時に、何か一つ自分を支えてくれるものがあって欲しい、それが空手だといいな、という願いで入門しました。入ってみると息子は四年近く経った今でも集中力は一時間位が限度で友達とじゃれ合いがちになりますが、それでも市川先生を始めとして皆さんが自分の子どもを見るように指導をして下さり、空手以外でもいろいろ気に掛けてもらい、とても良い人達に出会えた月心会に感謝をしています。

空手の技に関しては、自分の努力した程が実力になるのだと周りを見てつくづく感じますが、正直なところ今まで技を磨き上げるという努力はほとんどしたことがなく、大人になるまで運動をしたことがなかった私は闘争心もあまりないので、練習自体は好きなのですが、どちらかといえば息子の上達の方が気になっていました。自分が黒帯を身に着ける日が来るという想像もあまりしたことがなかったので、今、初段を受けることが出来るというとても嬉しい気持ちと、今より責任の重い立場のなる黒帯に本当になっていいのか、という懸念があります。苦しいと感じるべきなのは黒帯を身に着けてから、帯はもっと真剣に空手に向き合いなさいという教えなのだと言審査が近づくにつれひしひしと感じています。そしてもうひとつ、怪我をしやすい私は組み手などの習得はなかなか難しいのですが、護身術は前から是非覚えたいという願いがあったので、今後は技（今までの技も含めて）をしっかりと覚えること、護身術を身に着けることを目標として掲げたい、と思っています。

最後になりましたが、審査を前に怪我をしてしまい、今後の息子の審査の為にどうしても今回受けたいたいというわがままで、流動的に審査をしてもらえることに心より感謝を申し上げます。